

# テーマ:光と影

駒込第一保育園(豊島区)

## テーマを設定する

日当たりのよい当園の特徴を活かし、「光」をテーマとして設定する。園庭遊びの中で、太陽の光がバケツに反射し、発見した子が「魔法屋さん」という遊びを始めた。他の子どもたちも興味を示し、楽しんでいたので、今回「光」をテーマとして設定する。日の光以外にも、懐中電灯などを使った遊びの中から、新しい発見が生まれることによって、光に関する興味関心をさらに深めるため。

## 活動 アーティストワークショップ1～5

身体遊びや音遊びも取り入れつつ、「光」を当ててできる影や色で遊ぶワークショップを実施。ある絵本をモチーフに、身体の影で海の生き物を表現したり、海の生き物の形にカットしたカラフルシートに光を当て、部屋中に泳がせたりした。最終日には、光と影を使って遊んだ内容を構成&外部講師がストーリーテラーとなり、他クラス児童へ向けて劇仕立ての発表を行った。

## 環境をデザインする

●準備物 白布、スタンド、投光器、懐中電灯、子供たちが事前に制作したカラフルシート(セロハンをラミネート&海の生き物の形にカット)、楽器(スチールパン、トーンチャイム、オーシャンドラムなど)、OPPシート、絵本、遮光用ビニールシートほか

## 探究活動を実践する

### ●活動内容(2日目)

1. 絵本の読み聞かせ(生演奏つき)
2. 影絵のデモンストレーション。子どもたちが事前に作ったカラフルシート(透明のラミネートシートにカラーセロハンを挟んだもの)を使った影絵人形を、スクリーンに投影して見せる。
3. 影絵人形作り。イルカやトンボなど図柄をカラフルシートに重ねて輪郭を描いた後、ハサミで形を切り抜く。
4. 影絵にチャレンジ。完成したものをスクリーンに投影して影を動かしてみる。
5. 影絵人形に懐中電灯の光をあてて、壁や床、天井・服などに映る色や形、大きさが変化する様子を楽しむ。
6. 影絵チームと楽器チームに分かれて、雷、嵐、お花畑などの場面を表現してみる。
7. 子どもたちから感想を聞いて、終了。

※1日目は、同テーマに基づき別内容で造形ワークショップを実施。3～4日目は、身体を使って表現した生き物の影をスクリーンに投影したり、次回行う影絵発表会に向けて、登場キャラクターのアイデアを児童から募りながら、発表作品の冒険の旅のお話づくりを実施。5日目には他クラスの児童を招待して劇仕立ての影絵発表会発表を行った。

### ●子供たちの様子

- ・影絵人形を投影しながら、お互いに挨拶をしたり、会話をしたりして遊び始める姿がみられた。
- ・光源との距離によって、投影される影の大きさが変化する様子に気づくと、近づいたり離れたりしながら、変化の様子を観察する姿がみられた。
- ・発表会の影絵の投影の際、観ている児童の手に投影するなど、子どもたちの工夫がみられた。

## 活動スケジュール(4歳児クラス)

活動内容	実施日	時間/回	人数/回
① アーティストワークショップ1 講師：水内貴英(美術家)	R7.9.5 (金)	60分程度	16人
② アーティストワークショップ2 講師：佐藤円(演出家・俳優)他1名	R7.10.10 (金)	75分程度	13人
③ アーティストワークショップ3 講師：佐藤円(演出家・俳優)他2名	R7.12.5 (金)	75分程度	13人
④ アーティストワークショップ4 講師：佐藤円(演出家・俳優)他2名	R7.12.11 (金)	75分程度	15人
⑤ アーティストワークショップ5 講師：佐藤円(演出家・俳優)他2名	R8.1.16 (金)	75分程度	15人
⑥ 保育の中で光を取り入れた遊び	R8.2.5 (木)	90分程度	13人



## 振り返りをふまえた気づき

### ●保育士から

- ・園での生活のなかで、懐中電灯を使った遊びが始まったり、園内の発表会でライトを使った演出を子どもたちが提案したり、ワークショップで体験したことの経験を活かした子どもたち発案の活動が見受けられるようになった。
- ・子どもたちに対する声掛けや質問の仕方や、子どもたちの発言を活かした内容の展開の仕方など、外部講師の子どもたちへの向かい方、接し方がとても参考になり、日ごろの保育活動でも実践したい。